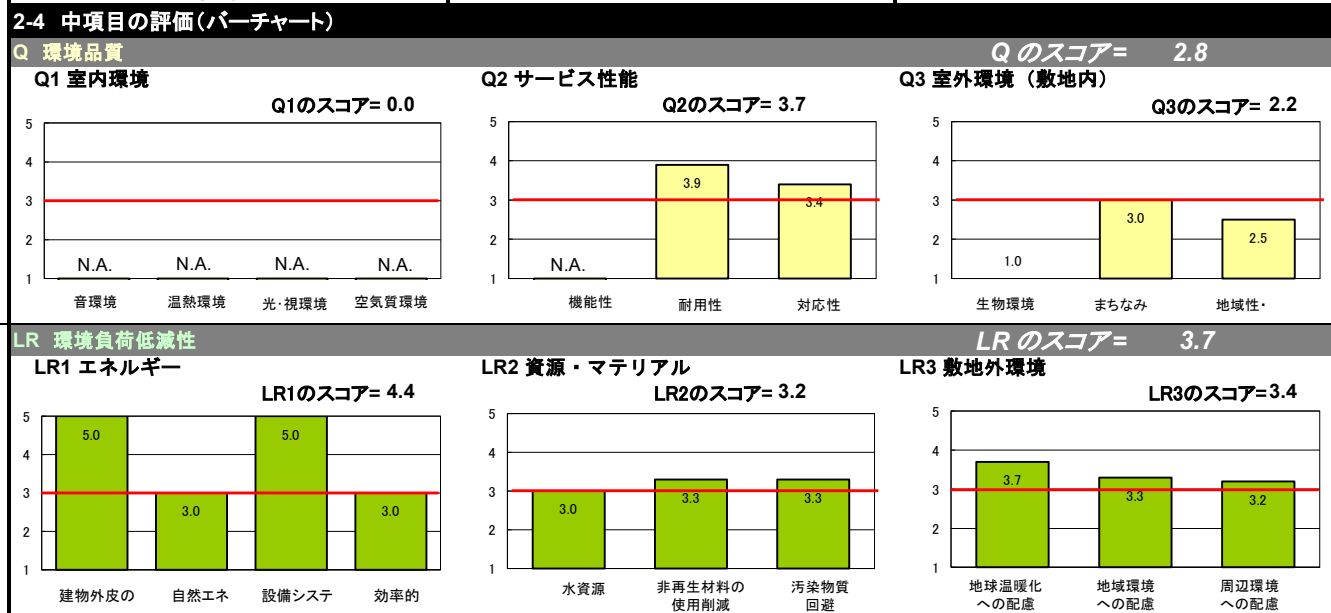
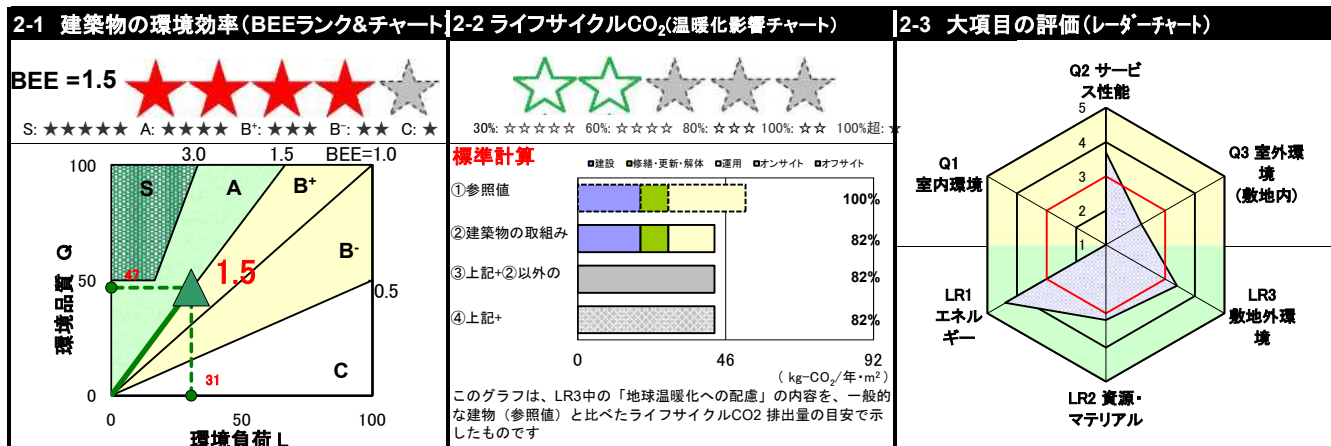


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24057

建築物名称	(仮称)HAKUBA DC2A2B新築工事(DC2B棟)
建築主	白馬特定目的会社 取締役 北川 久芳
建築物の所在地	川崎市幸区北加瀬二丁目585番1号の一部
設計者氏名、建築士事務所名	辻 芳人 株式会社大林組 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	15,083.36㎡
用途	その他(データセンター)
構造	鉄骨造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和11年4月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、地中熱ヒートポンプ
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	25057
建物名称	(仮称)HAKUBA DC2A2B新築工事 (DC2B棟)	階数	地上5F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	川崎市幸区北加瀬二丁目585番1号の一部	構造	S造		
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	93 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2029/4/1 予定	評価の実施日	2025/2/25		
敷地面積	6,090 m ²	作成者	辻 芳人		
建築面積	3,538 m ²	確認日	2025/3/5		
延床面積	15,083 m ²	確認者	北川 久芳		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)HAKUBA DC2A2B新築工事 (DC2B棟)

24057

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.8/4.3	2.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	評価対象外	0.0/0.0	-
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.54 BEI _m =0.60	4.4/5.0	4.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	3.1/4.7	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.5/0.8	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS使用している。	2.6/4.0	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.54 BEI _m =0.60	4.4/5.0	4.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

2.9

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.3	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.54 BEI _m =0.60	4.4/5.0	4.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート 実施設計段階		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄				全体	
配慮項目		G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										2.8	
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル						-	-	-	-		
1.2 遮音						-	-	-	-		
1 開口部遮音性能						-	-	-	-		
2 界壁遮音性能						-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-		
1.3 吸音						-	-	-	-		
2 温熱環境											
2.1 室温制御						-	-	-	-		
1 室温						-	-	-	-		
2 外皮性能			W			-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-		
2.2 湿度制御						-	-	-	-		
2.3 空調方式						-	-	-	-		
3 光・視環境											
3.1 昼光利用						-	-	-	-		
1 昼光率						-	-	-	-		
2 方位別開口						-	-	-	-		
3 昼光利用設備			W			-	-	-	-		
3.2 グレア対策						-	-	-	-		
1 昼光制御			W			-	-	-	-		
3.3 照度						-	-	-	-		
3.4 照明制御						-	-	-	-		
4 空気質環境											
4.1 発生源対策						-	-	-	-		
1 化学汚染物質						-	-	-	-		
4.2 換気						-	-	-	-		
1 換気量						-	-	-	-		
2 自然換気性能						-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮						-	-	-	-		
4.3 運用管理						-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-		
2 喫煙の制御						-	-	-	-		
Q2 サービス性能						-	0.43	-	-	3.7	
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-		
1 広さ・収納性						-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-		
3 バリアフリー計画						-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-		
1 広さ感・景観						-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-		
3 内装計画						-	-	-	-		
1.3 維持管理						-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計						-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保						-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性						3.9	0.50	-	-	3.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能						5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				R		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔				R		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				R		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				R		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				R		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				R		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-		
3 電気設備						4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性									3.4	0.50	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり									4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり								階高:3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ								0.1≦[壁長さ比率] <0.3	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり								—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性								—	3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性							—	3.0	0.20	-	-		
	2 給排水管の更新性							—	3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性							—	3.0	0.10	-	-		
	4 通信配線の更新性							—	3.0	0.10	-	-		
	5 設備機器の更新性							—	3.0	0.20	-	-		
	6 バックアップスペースの確保							—	3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)									—	0.57	-	-	2.2	
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	—	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮				G				—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮								—	2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								—	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー										—	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	BPIm = 0.54	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用					W		H	—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W		H	BEIm = 0.60	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用								—	3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								—	3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								—	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										—	0.30	-	-	3.2
1	水資源保護					W		R	—	3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水								—	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								—	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								—	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								—	3.3	0.60	-	-	3.3
	2.1 材料使用量の削減					W		R	—	2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W		R	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W		R	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W		R	屋上: (断熱材) 押出ポリスチレンフォーム	3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W		R	—	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W		R	LGSを使用している。	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								—	3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								—	3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤					W			—	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W			ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W			—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										—	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮					W			ライフサイクルCO2排出率82%	3.7	0.33	-	-	3.7
2	地域環境への配慮								—	3.3	0.33	-	-	3.3
	2.1 大気汚染防止								燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								—	2.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減							R	—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制							R	—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制							R	—	1.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制							R	—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								—	3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								—	3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								—	3.0	1.00	-	-	
	2 振動								—	-	-	-	-	
	3 悪臭								—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								—	3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								—	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								—	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制								—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								—	4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。 また、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	1.0	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(-)	窓の日射熱取得率(η)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
U値(W/m2K)	窓システム(-)	屋根(-)	外壁(-)	床(-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
住戸部システムU値(-)	外皮UA値(-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
屋光率	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自然換気有効開口	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収容性

執務スペース	.0㎡ / 人	病床	.0㎡ / 床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コンセント容量	0.0 VA/㎡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天井高	0 m	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
想定耐用年数	0 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
階高	4.2 m	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
壁長さ比率	11.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
床荷重	- N/㎡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	20%	建物緑化指数	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
空地率	42%	水平投影面積率	1%	地表面対策面積率	9%	舗装面積率	33%	-	-	-	-	-	-	-	-

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.54	熱等性能等級	対象外 相当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%	通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%	-	-	-	-	-	-

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	非住宅 0.60	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW	-	-	-	-	-	-
----------------------	----------	----	---	-----	------	------	------	-----	------	---	---	---	---	---	---

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定調達品E断熱材	エコマーク商品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
使用比率	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数	(地球温暖化係数(GWP))	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オゾン層破壊係数	(0 地球温暖化係数(GWP))	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オゾン層破壊係数	(地球温暖化係数(GWP))	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	70%	棟間隔指標Rw	0.62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地表面対策面積率	12.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
見付面積Sb	1.966㎡	越風向と直交する最大敷地幅Ws	104.5 m	基準高さHb	26.8 m	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
緑地	####	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡	-	-	-	-	-	-